

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	「商業教育」「部活動」「進路達成」への真摯な取組みを通じてビジネスリーダーたる資質と素養を育み、予想困難な未来をたくましく生き抜く力を身に付けた生徒を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・「ふるさと岐阜」への誇りと愛着を育み、清く、優しく、たくましく生きていこうとする心を有する生徒 ・ビジネスに関する確かな知識・技術を身に付けるとともに、将来、実際の経営活動の場面において、主体的に活用できる能力基盤と素養を有する生徒 ・地域経済の発展の担い手及び、社会貢献に対する強い意識を育むとともに、次世代のビジネスリーダーになる高い志を有する生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・課題発見力、課題解決力を育成するために、すべての教育活動において、「主体的・対話的で深い学び」の推進と創造性を育成 ・地域や社会など多様な人々と連携・協働して、実学を实践するとともに、地域を創生する意識の涵養と、自己有用感を高める教育活動を推進 ・実社会や職業との関わりを通して、高い職業意識や規範意識を育むとともに、共生社会に不可欠なコミュニケーション能力を育成するための教育課程を編成	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・基礎学力を有するとともに、高い志と目的意識をもって学校生活に臨む意欲のある生徒 ・将来、地域創生のために、ビジネスに関する専門的な知識・技術の習得を目指そうと学習意欲が旺盛である生徒 ・部活動、生徒会、地域等と連携した探究活動など、仲間とともに積極的に取り組む意欲が溢れるとともに、自らの伸長のために果敢に挑戦しようとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇教務部		
4 現状の分析	○授業アンケート「授業は、分かりやすくなるように教材等が工夫されていますか。」に対して3学年ともに90%を超えている。 ▲外部評価（生徒及び保護者等を対象とするアンケート）「学校は、授業や家庭学習への指導・支援等をとおして、一人一人の能力に応じた指導を行っている。」に対して肯定的な回答が68.2%と低い。		
5 学校の抱える課題	◇高度な資格取得を目標としているため授業内容も高度であり、進度も早く設定されているため、理解に苦しむ生徒がいる。		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・基礎学力の定着と課題の発見と解決のために、主体的、協働的に学習に取り組む生徒を育成する。 ・「主体的に学習に取り組む態度」を育成するための授業の工夫と評価の方法を検討し実践する。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 授業改善 (2) 授業評価 (3) 授業研究	(1) 授業アンケートにおいて「授業が楽しい」と肯定的な回答をする生徒が90%以上となることを目標とする。 (2) 授業アンケートにより、授業の進捗、理解度等を把握する。 (3) MetaMoJIやICTを活用した授業のさらなる研究		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・公開授業週間等を利用し、教科を横断して授業を参観することができた。授業研究会や、formsを利用して参観された先生の意見を集約するなど授業改善に努めることができた。 ・授業アンケートの結果の結果、検定試験の結果などにより授業の振り返りを行った。 ・授業アンケートの結果や教員同士の相互評価を受け、授業改善を実施した。	①授業アンケートにおいて、商業の科目が「面白い・楽しい」と回答した生徒が3年では90.2%であるが、1,2年生では80%を下回っている。 ②授業内容について肯定的な回答が普通教科、専門教科ともに90%を超え特に3年生が高い。 ③授業アンケートにおいて「教材等が工夫されていますか。」に対して肯定的な意見が95%を超えている。	A B <input checked="" type="checkbox"/> C D A B C D A B C D	
12 成果・課題	○公開授業週間等を利用し、教科を横断して授業を参観することができた。授業研究会や、formsを利用して参観された先生の意見を集約するなど授業改善に努めることができた。 ▲授業や資格取得等与えられた課題だけでなく主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせることや、学んだ知識、技術をアウトプットできる生徒の育成が必要である。		総合評価 A B C D
13 来年度に向けての改善方策案	・策定したスクールポリシーを全職員共通理解のもと、本校教育活動の一層の躍進に繋げる。 ・課題発見力・課題解決力を育成するために、すべての教育活動において、「主体的・対話的で深い学び」を推進し、授業モデルを提案・実践していく。 ・(樹)G I F U S H Oの実践的・体験的な学習について、各分掌、クラス、学科の連絡調整を綿密に行い、全校体制で運営強化を図る。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

【意見・要望・評価等】

今年1年間、学業や進学、部活動などで昨年度にも増して成果を出されたことについて、大変喜んでいる。教務部の説明の中で前年度の比較数値について時系列で観た時、1年生が2年生になった時、2年生が3年生になった時にどのように変わっていったのかという見方も1つあると思う。生徒の成長を観ようと思った時にその学年を3年間追うという見方もあっていいと思う。

保護者としては、とにかく資格をたくさん取らせていただいたことに感謝している。子どもは特に簿記に関しては自信をもつことができ、大学進学後もさらに上を目指して頑張りたいと言っている。また、県岐商は部活動においても多くの部が活躍しているので、今後も頑張ってもらいたい。1年間、この委員に携わることができ、学校がいろいろな取り組みをやっているということが初めてわかった。今後もより良い学校を目指して行っていただきたい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	「商業教育」「部活動」「進路達成」への真摯な取組みを通じてビジネスリーダーたる資質と素養を育み、予想困難な未来をたくましく生き抜く力を身に付けた生徒を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・「ふるさと岐阜」への誇りと愛着を育み、清く、優しく、たくましく生きていこうとする心を有する生徒 ・ビジネスに関する確かな知識・技術を身に付けるとともに、将来、実際の経営活動の場面において、主体的に活用できる能力基盤と素養を有する生徒 ・地域経済の発展の担い手及び、社会貢献に対する強い意識を育むとともに、次世代のビジネスリーダーになる高い志を有する生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・課題発見力、課題解決力を育成するために、すべての教育活動において、「主体的・対話的で深い学び」の推進と創造性を育成 ・地域や社会など多様な人々と連携・協働して、実学を实践するとともに、地域を創生する意識の涵養と、自己有用感を高める教育活動を推進 ・実社会や職業との関わりを通して、高い職業意識や規範意識を育むとともに、共生社会に不可欠なコミュニケーション能力を育成するための教育課程を編成	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・基礎学力を有するとともに、高い志と目的意識をもって学校生活に臨む意欲のある生徒 ・将来、地域創生のために、ビジネスに関する専門的な知識・技術の習得を目指そうと学習意欲が旺盛である生徒 ・部活動、生徒会、地域等と連携した探究活動など、仲間とともに積極的に取り組む意欲に溢れるとともに、自らの伸長のために果敢に挑戦しようとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇進学指導、就職指導		
4 現状の分析	▲外部評価(生徒及び保護者等を対象とするアンケート)「学校は、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしている。」に対して保護者の肯定的な回答が76.3%であり、4分の1近くが否定的な回答であるため、個に応じた進路指導が必要である。		
5 学校の抱える課題	◇指定校推薦などから進路選択するなど安易に進学先を決める生徒が少なくない。総合型選抜入試や各種推薦入試などへの対策をさらに充実させながら、個に応じた適切な進路指導が必要である。		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・継続的な学習習慣を身につけ、進路実現のための必要な知識・技術を習得できるよう援助する。 ・生徒の適性を生かし、社会での役割や自己の在り方を考えて進路選択・決定できるよう組織的な進路指導の充実に努める。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 継続的な学習習慣 (2) 進学指導の充実 (3) 進路選択のための情報	(1) 授業アンケートにおいて「指示された宿題等は必ずやっていますか。」と肯定的な回答をする生徒が90%以上となることを目標とする。 (2) 外部評価において「学校は、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしている。」と肯定的な回答をする生徒が90%以上となることを目標とする。 (3) 外部評価において「本校では、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」と肯定的な回答をする生徒が90%以上となることを目標とする。		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
(1) 継続的な学習習慣 ①学年、教科と連携した継続的な活用と課題発信 ②商業科と連携した高度資格取得に向けた働きかけ (2) 進学指導の充実 ①シラバスを活用した主体的な学び ②国公立大学・看護系学校の希望者に対する指導 ③志望動機・小論文指導の全職員による指導体制の確立 ④大学入学共通テストに向けた指導 (3) 進路選択のための情報 ①外部機関による適性検査の実施と結果の活用のサポート ②進路の手引き・学年集会等による情報提供と意識の高揚 ③オープンキャンパスへの積極的な参加の呼びかけ ④HP等を活用した保護者向け進路情報の提供	①授業アンケート「指示された宿題等は必ずやっていますか。」に対して普通教科、商業ともに90%を超えている。 ②外部評価「学校は、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしている。」に対して保護者78.7%、生徒88.8%であり昨年度より上昇した。また、国公立大学合格者を大幅に増加させることができた。 ③外部評価「本校では、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」であり保護者78.7% 生徒88.8%であり昨年度より上昇した。	A B C D A B C D A B C D	
12 成果	○国公立大学の魅力や入試方法を伝えたり、3年生の国公立大学合格者の話を聞く会を設けたりすることで、早い段階で意識の向上させることができた。		総合評価

・ 課題	<p>○国公立大学の合格者数を増加させることができた。</p> <p>▲多様化する受験方法の情報提供や、探究活動の充実を学年会や他分掌と協力して取り組むことが必要である。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> A B C D
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の実情にあった小論文指導や生徒の進路希望に応じた個別学習指導の体制づくり。 ・総合型選抜に積極的に取り組むことで、受験の幅を広げていきたい。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

【意見・要望・評価等】	<p>前回の会議で出た課題を踏まえて、卒業後の生徒の就職に関しても手をうっていただいていることはありがたいと思っている。卒業した生徒がその後、どのような人生を送っているのかというところまで追えるといい。教育の成果というのは、卒業後の人生で問われる。近年、デジタル化が進む中で個人の成長の記録などの教育成果を義務教育から高校、大学そして最終的には企業に個人の資産として引き継がれていく時代になっていくのではないかと考えている</p> <p>アメリカの私立大学では、卒業生が母校にどれだけ寄付をしたかということを重視する傾向がある。その背景には、自身のボーンアイデンティティを出身校に求めている、という点が挙げられる。卒業後、社会で成功した証を母校への寄付の大きさによって示し、そして母校から表彰されるといったような母校との繋がりをSNS等を利用してシステム化をしている。大切なことはいかに母校愛を持たせるか、である。今回の県岐商の取組みは卒業生に対してUターン就職に関する企業情報の発信ということであるが、後輩たちの学校の様々な活動などをどんどん発信していくことで、卒業生にこのネットワーク自体に関心を持たせ、離脱させないという広報戦略も有効であると思う。今年度卒業していく3年生に対して、このような取組みはとても良いと思うので、ぜひ、うまく運用していただきたい。</p>
-------------	---

【別添2】(様式例2)

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜商業高等学校 学校番号 9

I 自己評価

1 学校教育目標	「商業教育」「部活動」「進路達成」への真摯な取組みを通じてビジネスリーダーたる資質と素養を育み、予想困難な未来をたくましく生き抜く力を身に付けた生徒を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと岐阜」への誇りと愛着を育み、清く、優しく、たくましく生きていこうとする心を有する生徒 ・ビジネスに関する確かな知識・技術を身に付けるとともに、将来、実際の経営活動の場面において、主体的に活用できる能力基盤と素養を有する生徒 ・地域経済の発展の担い手及び、社会貢献に対する強い意識を育むとともに、次世代のビジネスリーダーになる高い志を有する生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題発見力、課題解決力を育成するために、すべての教育活動において、「主体的・対話的で深い学び」の推進と創造性を育成 ・地域や社会など多様な人々と連携・協働して、実学を实践するとともに、地域を創生する意識の涵養と、自己有用感を高める教育活動を推進 ・実社会や職業との関わりを通して、高い職業意識や規範意識を育むとともに、共生社会に不可欠なコミュニケーション能力を育成するための教育課程を編成 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力を有するとともに、高い志と目的意識をもって学校生活に臨む意欲のある生徒 ・将来、地域創生のために、ビジネスに関する専門的な知識・技術の習得を目指そうと学習意欲が旺盛である生徒 ・部活動、生徒会、地域等と連携した探究活動など、仲間とともに積極的に取り組む意欲に溢れるとともに、自らの伸長のために果敢に挑戦しようとする意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導部、教育相談部	
4 現状の分析	<p>○外部評価において「学校は、高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせるための指導を行っている。」に対して生徒、保護者ともに90%を超えている。</p> <p>▲外部評価において「学校は、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」に対して肯定的な回答が70.2%と低い。</p>	
5 学校の抱える課題	◇部活動や授業をとおして、身だしなみやマナーなどを身に付けさせているが、情報モラルやいじめなど、表面的に表れない問題に対して未然防止、早期発見、早期対応を組織的に実践できる体制が必要である。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな社会的課題に対応していくため、校則や指導方法を検討し改善していく。(LGBTQ、特別な支援を要する生徒対応など) ・交通安全、情報モラル、いじめなどの問題に対し、未然に防ぐための指導を行うとともに生徒の規範意識の向上をはかる。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 生命の安全と人格の尊重 (2) 校則・ビジネスマナーの研究・検証 (3) 各種講話の充実 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 外部評価において「生徒の安全・衛生面に配慮し交通事故や痴漢防止等の安全指導を行っている。」と肯定的な回答をする生徒が90%以上となることを目標とする。 (2) 外部評価により、「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている。」肯定的な回答をする生徒が90%以上となることを目標とする。 (3) 各分野において専門家などを招聘し講話を行う。 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> (1) 生命の安全と人格の尊重 ①安全意識の向上(交通マナー・安全行動) ②いじめ迷惑調査などを通したいじめの早期発見・防止・撲滅 ③インターネット(SNS)に関するトラブルの未然防止 ④人権意識の向上 (2) 校則・ビジネスマナーの研究・検証 ①ビジネスマナーの指導・徹底(商業教育推進部との連携) ②LGBTQなどへの対応のため他校の動向調査、制服などの見直し (3) 各種講話の充実 ①「豊かな心」の育成 ②「人間としての在り方・生き方を考える教育」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①外部評価「本校では、生徒の安全・衛生面に配慮し交通事故や痴漢防止等の安全指導を行っている。」について保護者78.7%生徒88.8%であり昨年度より増加している。 ②外部評価「学校は、高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせるための指導を行っている。」について保護者90.5%、生徒92.2%である。継続して指導していきたい。 ③外部評価「学校は、外部講師の講演や様々な体験活動等、授業以外の学習機会を生徒の安全に配慮しながら、適切に提供している。」について生徒88.9%であり充実させることができた。 	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>

12 成果 ・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> MS リーダーズ活動が充実して行う事ができ、同時に生徒会役員が交通ルールマナーアップ、ヘルメット着用推進運動を行う事ができた。 女子生徒がLGBTQ 対応としてスラックス着用者が増え、校内に違和感なく溶け込んでいる。 PTA 生活指導委員会と連携し、交通指導を2回行う事ができ、人権講座にも参加していただいた。 校歌挨拶指導を2カ月に分けて行い、部活動部員の協力を得て、5月2回目には4月よりも良い応援歌唱、挨拶を行う姿があった。運動部活動未入部者への応援歌指導を行えた。 	<p style="text-align: center;">総 合 評 価</p> <p style="text-align: center;"> <input checked="" type="checkbox"/> A B C D </p>
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> 施錠、盗難防止、自己管理意識を向上させる。 登下校自転車マナー向上、ヘルメット着用率の向上。 特別活動部、各部顧問と連携し、交通マナー徹底や生活指導の徹底。 MS リーダーズや生徒会主体による交通マナー向上。 卒業3年生生徒にむけた薬物乱用講話を保健厚生とコラボ実施。 学年会と連携し、校則を守らせる指導の徹底。 いじめ防止に関する講演会の実施 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

【意見・要望・評価等】

商業推進や生徒指導のアンケート結果の一部において、生徒は上昇しているが、保護者は下降しているという傾向があるが、これはこの学校がというわけではなく、おそらく社会のニーズなのか規範なのか、あるいは親の期待なのか、毎年同じことを教えていてもだんだん親の期待度が上がってきてしまっているのではと感じている。社会のニーズに教育現場が合わせていくことやどのようにその乖離を埋めていくのかは大変難しいところであると思う。

みなさんのお話をお伺いして、地域として果たしてどのように協力していったらよいのかと考えていたのだが、1つは地域パトロールをほぼ毎日行っているが、県岐商は定時制もあるので、そのあたりは注意して見守っていけるようにしたいと思っている。春と秋に地域のお祭りもあるので、そういった行事にも県岐商の生徒さんに参加していただければと考えている